

手づくり^{ふるさと}郷土賞 選定委員会

全体講評

「手づくり^{ふるさと}郷土賞」は、社会資本と関わりを持つ地域づくりの好事例を広く紹介することにより、個性的で魅力ある郷土づくりに向けた取組が進むことを目的に、昭和61年度に創設され今年度で23回目を迎えました。

今年度からは、従来の「地域整備部門」と「地域活動部門」を統合し、地域の魅力を創出している、良質な社会資本及びそれと関わりのある優れた地域活動を一体として評価する「手づくり^{ふるさと}郷土賞（一般部門）」とし、「手づくり^{ふるさと}郷土賞（大賞部門）」とあわせ2部門について募集し、選定いたしました。

今年度の受賞箇所を見てみると、身近な自然（里山・里川）を舞台に、その保全・再生や周辺環境の整備・管理などについて、住民の方々の長期間にわたる地道な取組が多くみられたことが大きな特徴でした。また、社会資本の整備へ住民も積極的に参加することにより、生活を支える社会資本が地域づくりの核となっている事例や、行政に先だって住民が自ら考え工夫を凝らしながら主体的に取り組んでいるもの、地域の文化や特色を生かし地域活性化・観光振興に取り組んでいるもの、土木遺産を地域の財産として保存・継承しながら地域づくりに活用しているものなどもみられ、生活とともにある社会資本が整備・維持管理・活用されながら、特色ある地域づくりが行われていることを実感しました。

近年、少子・高齢化や地域間格差、地域経済の疲弊など、都市・地方ともに非常に厳しい状況にあります。応募された取組をみると、地域の元気を創出し、地域を動かしていくのはそこに生活している“人”に他ならないことを再認識することができました。「手づくり^{ふるさと}郷土賞」は、地域づくりの担い手である“人”及び生活・活動の舞台である“場”の形成を応援したいと考えています。今後も、多くの活動主体が自らの地域に誇りを持てるような地域づくり・地域再生に取り組んで行かれることを期待いたします。